

JMS 粉末溶解装置

PDR-SA・PDR-SB



PDR-TA502・PDR-TB502



**Compact and Simple dialysis powder
dissolution apparatus**

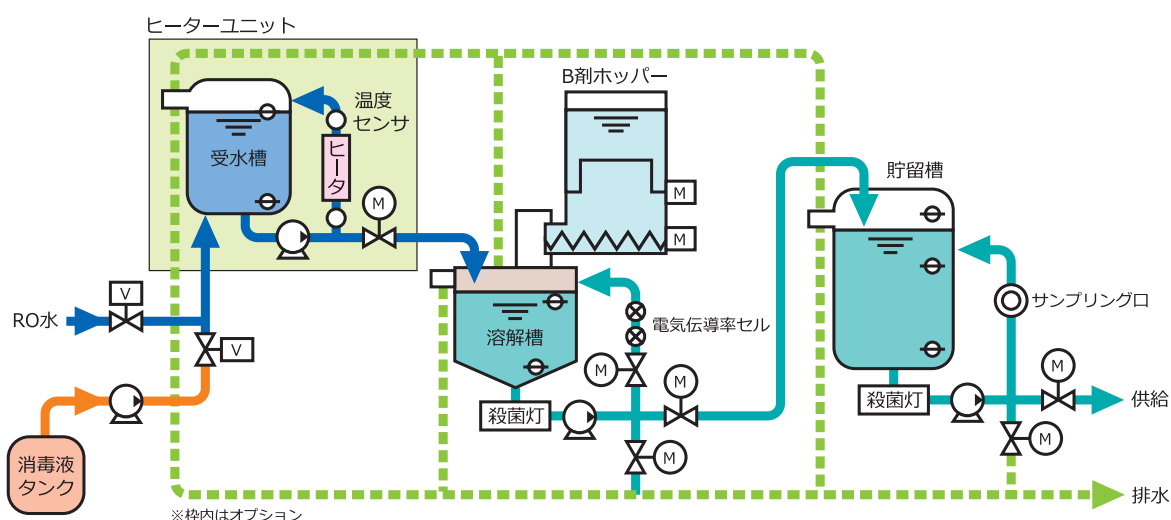
PDR-TA502・PDR-TB502

Device Overview

- 粉注口部に固着防止ユニットを標準装置し、メンテナンスを軽減し、より確実な粉注が可能です。
- 心臓部には、豊富な実績を持つ高信頼性の電気伝導率セルを採用しました。
- カラータッチパネルを搭載し、より見やすく操作が簡単になりました。
- 粉末剤の溶解を自動にすることでスタッフの日常業務が軽減できます。
- 日常操作は、ホッパーへの粉末剤充填、消毒液量の確認だけです。



概略フロー図



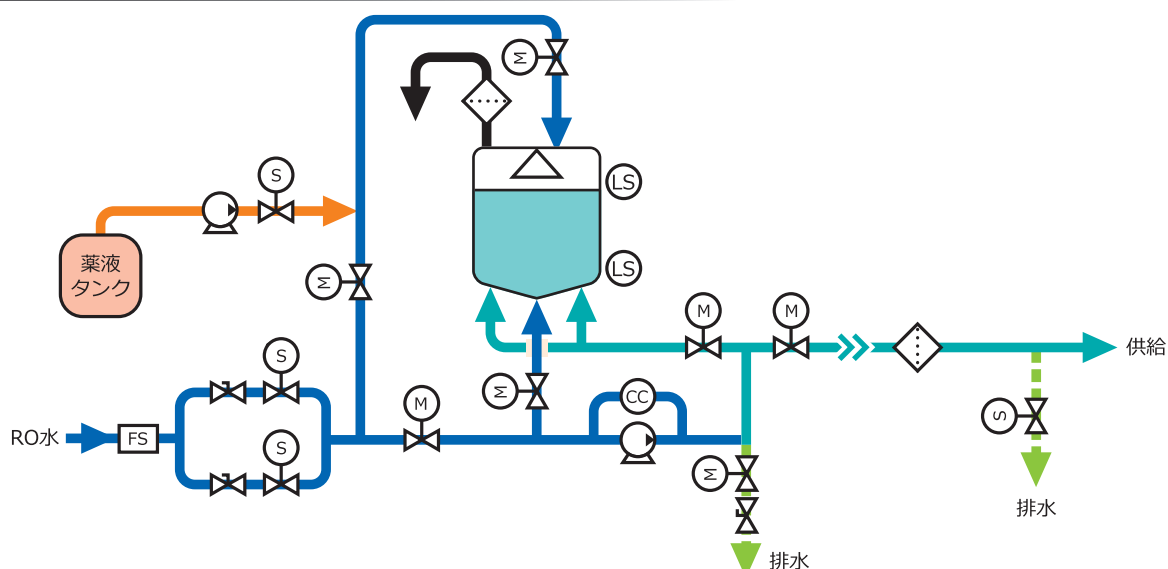
PDR-SA・PDR-SB

Device Overview

- シングルタンク（1槽式）により、省力化、省スペース化をはかりました。
- RO装置から供給されるRO水によって、直接タンク内全面をシャワーリング洗浄しています。
- 洗浄効果を高めるために、タンク上面、ふたを斜めにしました。タンク下面も斜めにし、液だまりの少ない構造にしました。



概略フロー図



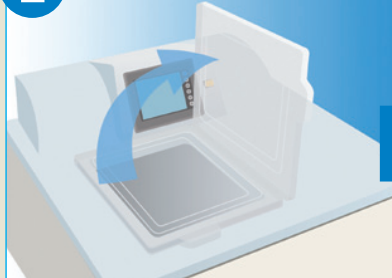
Performance

簡単な日常作業

ホッパーへの粉末剤を投入するのみで、自動で粉末剤を溶解し原液を調整します。

シンプルな操作手順

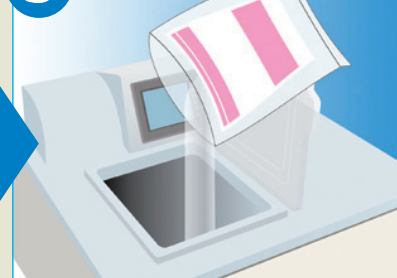
1 粉末剤充てん口のふたを開ける



2 粉末剤の袋を開ける



3 粉末剤を投入する



溶解予約機能

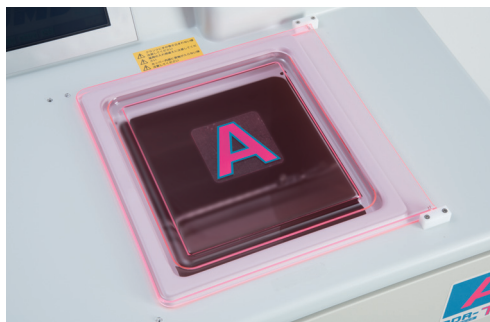
原液の調合回数が設定できますので、原液を無駄なく使用できます。
また、1透析あたりに必要な原液供給量を週間スケジュールで設定することも可能です。

供給能力の向上

最大50床まで対応可能です。
※ヒーターユニット(オプション)の搭載が必要な場合があります。

粉末剤の誤投入防止

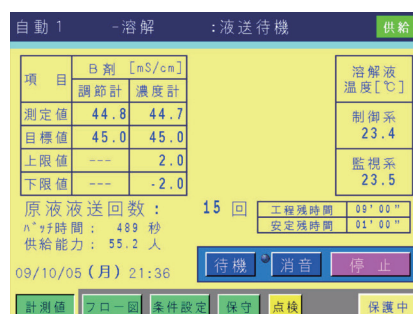
粉末剤投入口のカバー色分け、AおよびB表記により誤投入を予防します。



視認性に優れた画面表示

タッチ式カラーLCDの採用

カラータッチパネルを搭載し、視認性と操作性がさらに向上しました。
計測値や運転予定、原液作製回数など各種情報を表示させることができます。



Purity

洗浄・消毒方法

装置入口から出口までの全ラインを自動で洗浄・消毒します。

RO装置との連動機能

RO装置との連動により全てのラインを自動で洗浄・消毒します。

※機種により対応できない場合があります。

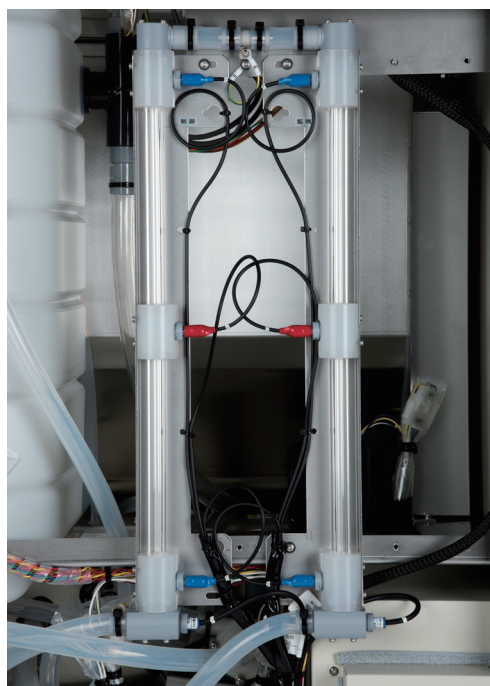
セントラルとの連動機能

多人数用透析液供給装置(セントラル)との連動により、装置及び原液供給ラインを自動で洗浄・消毒します。

Safety

電気伝導率によるフィードバック制御

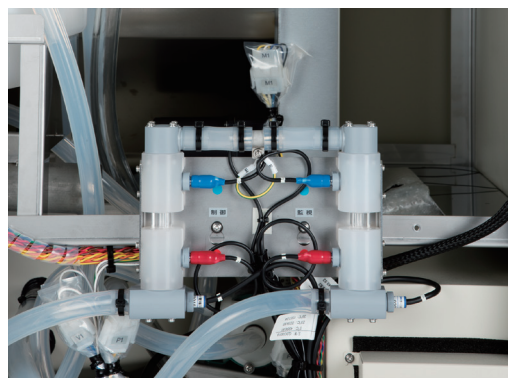
溶解液の電気伝導率の連続測定によってフィードバック制御を行い、高い溶解精度の原液を調製します。



PDR-TA502 電気伝導率セル部

高い信頼性の電気伝導率セル

電気伝導率測定には、長年の実績がある電気伝導率セルをダブルで採用し、高い信頼性を確保しています。



PDR-TB502 電気伝導率セル部

粉末剤の固着防止

粉注口部に固着防止ユニットを標準装備しています。



PDR-TA502 粉注口



PDR-TB502 粉注口

部品交換周期お知らせ機能

部品交換のタイミングを報知し、メンテナンス業務を支援します。

耐腐食性の向上

ホッパー部は耐腐食性に優れたステンレス鋼*を使用しています。

※PDR-TA502:SUS329J4L

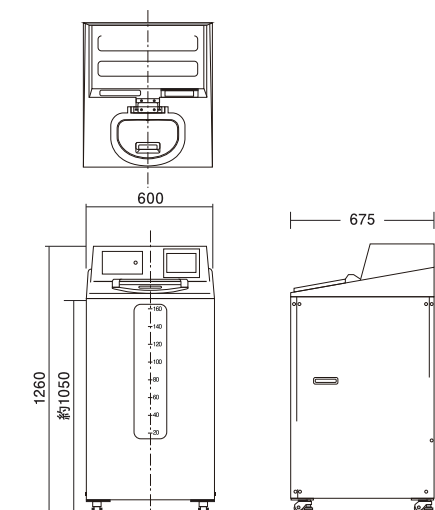
仕様

装置名称			PDR-SA	PDR-SB	PDR-TA502	PDR-TB502
外形寸法 (mm)			600(W)×675(D)×1260(H) (粉末投入高さ 約1050)		650(W)×750(D)×1165(H) (表示灯除く)	
重量	標準	乾燥時	約120kg		約110kg	約108kg
		満水時	約280kg		約191kg	約165kg
	ヒータ付	乾燥時	－	－	約118kg	約116kg
		満水時	－	－	約208kg	約183kg
電源			AC100V±10% 50/60Hz		AC100V±10% 50/60Hz	
消費電力	標準	約0.5kVA以下		約0.3kVA以下		
	1kWヒータ	－	－	約1.4kVA以下		
	1.5kWヒータ	－	－	－	約2.0kVA以下	
原液作製	ホッパー容量		－	－	A剤：約50L	B剤：約30L
	タンク容量		160L		－	－
	作製方式		希釈水の供給後、装置上部の投入口より粉末を手動で投入		ホッパーへ手動で投入、プログラムにより自動で作製	
	希釈水量制御方式		溶解する袋数を設定することで相当する希釈水量を自動供給・計算		－	－
	攪拌・溶解方式		ポンプによる水流攪拌を行い原液を溶解する		－	－
	溶解袋数		3～16袋	2～13袋	－	－
	原液作製量		－	－	約8.6L／回	約9.3L／回
	濃度	濃度センサ		導電率計（電極式）		導電率計（電極式）
濃度測定範囲		160～240mS/cm	36～54mS/cm	0～300mS/cm	0～200mS/cm	
給水条件	流量		5L/min 以上（給水中） 7L/min 以上（洗浄中）		6.6L/min以上（溶解運転時）	
	圧力		0.05～0.18MPa (0.5～1.8kgf/㎡)		0.1～0.3MPa (1～3kgf/㎡)	
	温度	25℃以上 (25～30℃)		15～30℃*1		－
		原液7%	－	－	－	15～30℃*1
洗浄消毒	原液8.17%		－	－	－	25～30℃*1
	洗浄方式		シャワーリングによる水洗		水洗	
	消毒方式	次亜塩素酸ナトリウム		次亜塩素酸ナトリウム		
		弱酸性水		弱酸性水		
オプション	サブタンク		50L, 100L		－	－
	原液ライン排水弁		○		○	
	ヒータユニット		－	－	1kW	1kW, 1.5kW
	代表表示灯		－	－	○	

*1 指定温度範囲以下の場合は、オプションのヒータユニットが必要です。

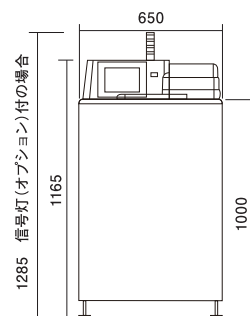
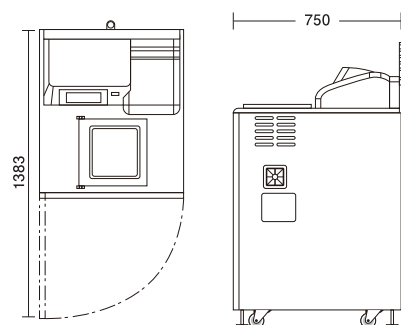
医療機器非該当品

寸法図



■ オプション

- サブタンク (50L、100L)
- 排水弁



■ オプション

- 排水弁

- 外観・仕様は予告なしに変更することがあります。
- カタログの写真は印刷物のため実際のものとは異なる場合があります。
- 使用方法については、取扱説明書に従ってください。
- 使用にあたっての“警告・注意”については、取扱説明書に記載しています。



販売業者
株式会社 ジェイ・エム・エス
<http://www.jms.cc>

■ お問い合わせ先

東京本社 血液浄化営業部 TEL 03-6404-0602
〒140-0013 東京都品川区南大井1丁目13番5号 新南大井ビル

2016.11.30XB092-IB